

「ぜん息」助成 継続を

患者たち 新市議らに要望書



市役所前で抗議に集まった患者たち＝川崎区で

川崎市独自の「成人ぜん息患者医療費助成制度」と「小児ぜん息患者医療費支給事業」を二〇二四年三月末に廃止する市の方針に反対し、川崎公害裁判の元原告や患者らが二十日、市議選に当選した新議員らに、

制度の継続を求める要望書を提出した。市役所前の抗議行動には、ぜん息患者ら百人超が参加。「川崎公害病患者と家族の会」のメンバーが議会の各会派を回り、要望書を提出した。面談にまで応じ

たのは一部の会派だったといい、長男が認定患者で同会会長の丹操さんは「この運動は、どんなつらいことがあっても、どこまでもやっけていく決心だ」と訴えた。この日、福田紀彦市長宛てに制度の継続を求める全

国からの二百団体の署名も提出し、団体署名は計二百五十団体になった。合わせて当事者であるぜん息患者との面談を福田市長に求めたが、秘書課の職員が「文書で回答する」と対応し、面談はかなわなかった。抗議行動の最後、集まった全員で「制度を廃止するな」「福田市長は公害患者との交渉に応じる」と声を上げた。(竹谷直子)

維新が第5会派に 市議会

川崎市議会は二十日、各会派の代表者が改選後の人事や運営について協議する世話人会の第二回会合を開き、五月三日からの会派構成を確認した。

第一会派となるのは自民

党で十七人。立憲民主党十二人と国民民主党一人、無所属の井土清貴氏で構成するみらいは、計十四人で第二会派となる。公明党は十一人、共産党は八人で、七人の維新の会が新たに第五会派として加わった。無所

属は吉沢章子氏、月本琢也氏、重富達也氏の三人。団長は自民が原典之氏、みらいが堀添健氏、公明が浜田昌利氏、共産が宗田裕之氏、維新は三宅隆介氏が務める。

世話人会では今後、議席の配置や各常任委員会の人数配分などを決める予定で、維新にも常任委員会の正副委員長ポストが割り当てられる見込みとなっている。

(北條香子)